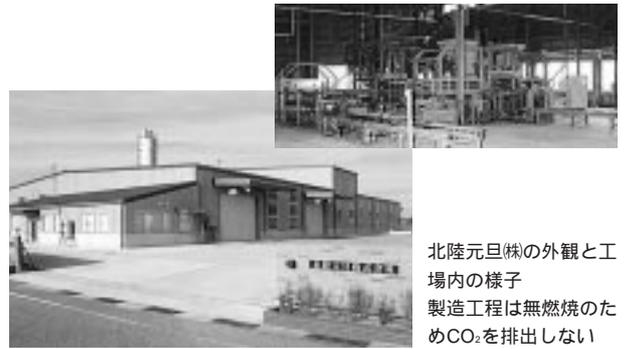


探訪 チャレンジ企業 28

循環型社会の旗手 北陸元旦(株): 鹿島町 (建設資材製造・リサイクル製品製造)



北陸元旦(株)の外観と工場内の様子
製造工程は無燃焼のためCO₂を排出しない

一 循環型社会の始まり

平成十二年六月に、循環型社会形成推進基本法が公布され、わが国にも、本格的なりサイクル時代が到来した。その中心は容器包装のリサイクルであり、対象品は、それぞれに再資源化が進展中である。

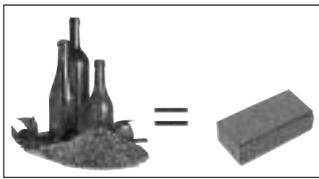
しかし、最もリサイクルしやすいはずのビンの中でも、緑色ビンだけは、再資源化が進まない。原因は、輸入ビンが多く、組成がバラバラである上に、不純物も多くガラスとしては再生できないためである。

そこで考えだされたのが、破碎してカレット(ガラス破砕粒)に変え、コンクリートと混ぜてブロック状に成形し、建材として利用するという方法である。

二 エコクリスタルの誕生

エコクリスタルとは、北陸元旦株式会社(元ビユーティ株式会社(神奈川県))が特許権を所有する、廃ガラスを最大八〇%含むブロック状の建材である。

カレットにホワイトセメント(普通ポルトランドセメントから酸化鉄などを除去したもの)とガーネット(ザクロ石)を混ぜ、高接着強度のモルタルで固める。



有色(緑色)ガラス廃材をブロック状に成形・加工し、建材・舗装材として再生

様々な形状・寸法に成形可能であり、カレットの大きさによって、無透水性、透水性、透水性

性を持たせたりできる。歩道、屋外広場等の舗装材等に使用できるが、透水性のあるものは、街路樹の育成に適し、また、水はけが良いために歩道に水たまり防止の傾斜をつける必要がある。

樹脂を用いて固化させるので、焼成する必要がなく、CO₂の排出もない。

まさに「環境時代」を象徴するような製品であり、エコマーク製品の認定を受け、石川県リサイクル製品の認定も受けている。

三 事業立ち上げ時の苦労

良いことづくめの環境志向型製品であるが、砂利だけで成形した建材と較べると、ガラスビンを破碎し、カドを丸めてカレットに変えるまでの工程が追加される。この分のコストがそのまま製品価格に上乗せされるため、どうしても割高となる。

エコクリスタルに市場性を持たせるためには、カレット化までの費用を別建てとし、リサイクルによって不要となった廃棄物処理費や廃棄場建設費と相殺してその分は、社会全体で負担していくような仕組みが導入されねばならないだろう。

四 社会的使命に理解を

北陸元旦株式会社は、元ビユーティグループの全国第一号企業であり、活発に事業活動を行っている唯一の企業でもある。石川県民の環境意識の高さを証明するような企業とも言える。新しい事業が社会の認知を得、理解を得、支援を得るまでには、かなりの時間を要する。



リサイクル製品への理解と利用促進を語る山田謙悟社長(右)と清水真治工場長(左)

同社は、環境重視という社会のニーズを受け、石川県と鹿島町の助成を受けて成立した時代の最先端を行く企業である。ガラスビン以外にも、瓦や陶磁器破片、溶融スラグ等の使用が可能であり、廃棄物リサイクル対策として、対応範囲が広い。リサイクル製品が高コストになるのは止むを得ない面があり、それをどのようにしてどこまで受け入れていくかに社会全体の見識が示される。

エコクリスタルの使用による環境負荷の軽減によって、社会が負担すべきコストも、トータルで見れば軽減されていることは、正しく理解されねばならない。

同社の発展を通じて、社会全体が環境に対する認識を深めていくことを期待したい。

(お問い合わせ)
北陸元旦株式会社

〒九二九 一七三三
鹿島郡鹿島町水白二〇一
TEL 〇七六七 七七 八八二一
FAX 〇七六七 七七 八八二二

このコーナーでは石川の「チャレンジ企業」を応援しています。取材を希望される方は最寄りの商工会をお訪ねください。

次のあなたと、はじめます。

損保ジャパン

「株式会社損害保険ジャパン」は、安田火災と日産火災が2002年7月1日合併し、誕生した会社です。

株式会社 損害保険ジャパン

〒169-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL. 03(3349)3111
ホームページアドレス http://www.sompo-japan.co.jp